

合宿誘致を推進せよ。

仁政クラブ 佐藤大成 議員



市長 予算を増額し、強化していく。

合宿誘致の考え方は

質問 豊かなスポーツ環境と宿泊体制を持つ仙北市においては、合宿誘致の強化が市経済の活性化に大きく貢献すると考える。昨年度の合宿実績と本年度の目標誘致数を伺う。

答弁 合宿誘致は大きな意義があるという認識を持っている。平成27年度は、高校6校、大学8校で約900人が仙北市を利用していき。目標誘致数を早期に定め、推進していきたいと考えている。

質問 誘致においては、ある競技に特化し、熱心な誘致活動を行い、充実した練習環境を整えている自治体が成功している。現在の仙北市では、モーグルや野球、陸上長距離、カヌーがふさわしいと考えるがどうか。

答弁 誘致に関しては、設備の充実が必要であることは理解している。また、仙北市出身のアスリートの方々の活躍を把握するネットワークも、しっかりと構築する。モーグル・カヌーは、オリンピックの合宿候補地への登録を目指したい。

決算説明資料の充実を

質問 北海道新冠町では、決算説明資料に事業の課題・評価、改善・今後の事業展開が示されている。今後の議論において、PDCAサイクルを軸にした政策評価・検証が行われるが、仙北市で使用されている今の資料では、十分な情報提供はなされていない。決算説明資料の改善並びに充実を求める。

答弁 改善した場合のメリットも大きく、よりスムーズで深い審査が行われると感じている。改善を進めたい。

市内中学校の統合に向けて

質問 生徒数の減少予測も示され、有識者の会議を経て、今後は望ましい統合の在り方が本格的に議論されると思う。統合に向けた議論や調査の具体的なスケジュールは決まっているのか。

答弁(教育長) 本年度中に学校適正配置検討委員会を設立する。また、保護者や市民へのアンケート調査を実施する。

質問 前回の質問で市長は、学校統合は「局地的統合が望ましい」と答弁している。しかしながら、

現在の市内の生徒数を考慮すると、統合によって一時的には生徒数が増え、地域によっては、数年後に統合前の人数に戻ってしまうことが容易に想定される。

文部科学省が、学校統廃合に関する新しい手引を、各教育委員会に通知して1年になる。その結果、全国の学校ではバスで75分以上の通学も珍しくない状況である。改めて提案するが、3～5年計画で段階的に、市内中学校は1つにした方が良いのではないかと。

答弁(教育長) 現在の市の対応が手引に逆行しているという批判は否めない。ただ、手引は強制ではない。部活動等の問題はあるが、地域のコミュニティの中核であるということを重視したい。

ドローン競技会をどう産業振興に結びつけるのか。

質問 仙北市でドローン競技会が開催される。市当局は、競技会を絶好のアピールの機会と強く認識し、企業誘致に励まなければならない。だが、昨今の企業誘致活動をみると不安を感じずにはいられない。ドローン競技会の概要、企

業誘致活動の具体的な計画を伺う。
答弁 競技会は操縦技術の向上、企業のドローン産業への参入等を目的としている。開催日数は1日で、7月に開催予定となっている。具体的な計画として仙北市は、ドローン産業を振興するという強い意志があることを前面に打ち出し、人材の育成や実証実験への支援を積極的に行う自治体であることとを、アピールすることが、重要であると考えている。将来的には、ドローンバレーを目指す。
(門脇民夫記)



■五輪合宿候補地へ向けた熱心な取り組みを



議員 荒木田 俊一 翠巒会

司食品の誘致は断念か。

市長 市としては、まだ断念とは言えない状況である。

（株）食品工業誘致について

質問 昨年12月に行われた、司食品との会議録に社長の署名はいたっているのか。

答弁 会議内容を、お互い確認する意味合いで署名捺印を申し合わせたものである。2月に郵送しているが、いまだ署名捺印はいただいていない。

質問 今回の企業誘致活動は断念したと判断してよいのか。

答弁 正式な答申が無い現状である事から、まだ断念と言えない状況と判断している。

質問 造成した跡地活用策について、秋田銀行が全力を傾注するとの発言であったが、主体者としての発言はなかった。どう捉えているのか。

答弁 私及び市が何もしないと言ったような趣旨の発言では毛頭ない。司食品を紹介いただいた秋田銀行が、全力で事後対応も含めて最大努力を傾注していただけるという話からの発言である。

質問 両者間で本当の信頼関係が構築できていたのか。

答弁 信頼関係がなければ、このような取り組みはなかったと思われる。双方の責任で行った事業であり、企業の一方的な話は理解

できない。

質問 これまで、議会に対し、提案や説明をしてきたのは何であったのか。

答弁 議会と議論を重ね企業誘致を進めてきている。

仮に司食品が進出困難な状況になったとしても、県、秋田銀行、各種関係団体と情報の共有を図り、あらゆる対応に全力で努力する。

質問 議会からの「企業誘致の早期実現を求める決議」を、どう受けとめているのか。

答弁 市の重要な政策課題の解決として早期の誘致実現を求めた決議と想っている。

質問 企業誘致を今後5年間で、5社の目標値としているが、基本的な戦略はあるのか。

答弁 企業立地促進条例に基づく奨励措置制度や各種資源を広くPRし、地方創生特区の特性を最大限活用していく。

教育について

質問 角館小学校の放課後児童クラブを小学校内に設置できないか。

答弁 現時点では、どうしても空き教室がなく困難な状況である

質問 移動に時間と安全面で不安の声がある。スマイルバス等の利

用はできないか。

答弁 検討していきたい。

質問 角館小学校のプールで昨年「匂いがした」との声を聞いたが報告はあったのか。

答弁（教育長） 2回報告を受けている。夏に高温が続いたことにより藻が発生した際、塩素を強めたのが原因と思われる。健康被害の報告は受けてない。

質問 プールの水質検査体制と、ろ過装置等の管理体制は。

答弁（教育長） 検査機関及び学校での検査で数値的な異常は見られない。循環ろ過装置は、毎年3回の点検を市内業者に委託している。今年度、ろ過カートリッジの交換修繕を行いたい。

質問 他の学校のプールで問題はないか。

答弁（教育長） 問題の報告は特にないが、各学校のプールも老朽化しており、今後も改修を進めていきたい。

神代地区の

水道未普及対応策について

質問 水源確保の状況と対応は。

答弁 卒田地区については、黒倉地内に井戸を掘削し、水質、水量とも有望と判断している。

神代小中学校周辺は西木地区簡易水道の拡張、小松地区は角館上水道の拡張により確保できると考えられている。

質問 計画の作成、事業実施の見通しは。

答弁 平成28年度に卒田地区のアンケート調査を実施し、その結果、早ければ工事の実施は平成30年で完成まで5年程度と想っている。

質問 総合計画の位置づけは。

答弁 基本目標に、水道未普及地域の解消事業を掲げている。
（小林幸悦記）



■老朽化が進む小学校プール

どうする医療行政。

民政会議 安藤 武 議員



市長 市全体の医療体制、連携を進める。

質問 市立田沢湖病院経営安定化計画について、医療体制の整備は医療局と一体的に医師確保や他の医療機関との連携等々計画するとしているが、従前とならん新味がないばかりか、これまで経済の変化や制度の改革に沿った経営を展開できず、十分な経営戦略の無いまま事業展開をして来たその延長ではないか。

医療局の宮川信管理者が数年かけて経営の立て直しを図ったはずだが、なんの成果も見られないばかりか悪化の道を辿る一方だ。不良債権額が4億3千万円に膨らみ、やむなく基準外繰り入れ1億円を注入して経営の立て直しを図るとの事だがその本気度が見えないし医療連携も口先ばかりだ。

さらに神代診療所の伊藤所長の辞任に衝撃を受けている。地域医療に率先して臨んだ方で、手厚い患者対応を慕う方が多かった。今、先生に在宅医療を受けていた方々の心配は極度に達している。この医師確保が困難な中（伊藤医師の辞表を受理せざるを得なかった事）決断理由と今後神代診療所をどうするのか伺う。

答弁 医師確保については、地域の皆様の期待に十分に応えきれな



■基準外繰り入れの実施される田沢湖病院

い現状を打開する思いで医療局を中心に粘り強く招聘活動を行って

いるが依然として厳しい。看護師については27年度に3名を採用し28年度は2名の採用が決まっている。

新年度から田沢湖病院を中心に地方創生特区事業に取り組んで行く。秋田市在住の柴田裕医師をお迎えし、通常の診療業務の他、温泉と医療のヘルスケアツーリズムの実現に向けた活動を始める。

空席になっていた病院事業管理者に医療福祉分野に知見の深い、梶健康福祉部長の進藤英樹氏が4月から着任する。市全体の医療体制、連携が進む事を期待している。田沢湖病院の基準外繰り入れは

（資金不足の解消に向けて経営の安定化を図る様）監査委員の指摘の他、国、県からも是正を求められており、極めて重要な対策と考えている。改革推進計画に基づき、前述したヘルスケアツーリズム構築の拠点施設としての他、現在台湾当局と外交ルートで医師招聘作業を進めている。

県が進める地域医療構想と総務省の新公立病院改革ガイドラインに基づき本市でも地域市立病院等改革プランを策定する。一層の経営改革が進むものと考えている。

田沢湖病院の具体的な医療連携は、両市立病院相互の定員受け入れ、退院後の施設入所調整等について角館総合病院を中心に医療介護の連携を図る。

質問（医療連携を中心とした本市の医療問題が）市長の答弁とおりの進めば問題が無いわけだが、その可能性がものすごく低い事からこの問題を提起した。

伊藤先生は自分が辞任する事によって仙北市の医療（特に医療連携に対する考え）が少しでも変わってくればと、非常に寂し気に語っておられた。先生の言われた事の半分でも実現していれば、お

やめにならなかつたと思う。先生の切なる意思をくんでほしい。

答弁 神代診療所の事案については伊藤先生の地域医療にかける、患者第一主義の熱い取り組みは尊敬すべきものだった。この度の退任は誠に残念であり、何度も慰留したがご本人の決心が固く辞表を受理するしかなかった。

診療業務に関しては、これまで通りの診療時間を約束できるか不透明だが医師確保に向けて最大の努力中である。

（阿部則比古記）



■どうなる神代診療所

【用語解説】 基準外繰入金…公益性の観点から、例外的に一般会計から公営企業会計に繰り出す経費のうち、総務省が示した繰り出し基準に合致しない経費。



市民クラブ 八柳良太郎 議員

角館の桜まつりと滞在型、宿泊型の観光事業をどうする。

市長 桜まつり期間外の開催と食のブランド化を進めていく。

角館の桜まつりと観光事業支援について

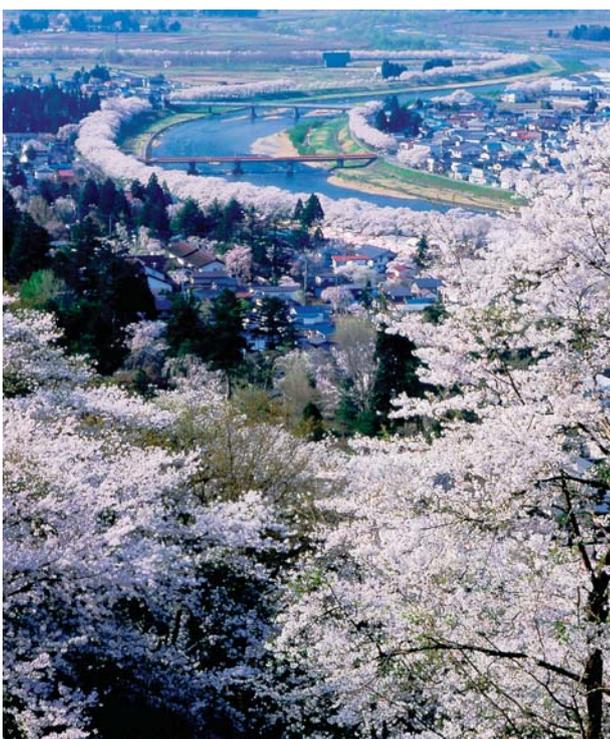
質問 昨年の桜まつりは例年より開花が早く、ゴールデンウィーク前に散り始めた。また、通過型の観光から仙北市ブランド産の飲食を提供させ、外貨獲得に努めるべきでは。

答弁 角館の桜まつり期間を桜の開花に合わせて、アフターイベントの必要性とプレオープン開催の要望が出ており、昨年角館の桜まつり出店組合設立に合わせ、桜まつり期間外の開催を検討したい。「仙北市の食の観光資源として、新た

に仙北市夢牧場の6次産業化を進め牛肉のブランド化」で観光客の方々に提供させたい。

質問 松木内川堤は文部科学省で名勝指定を受けているが、老木となり、枝も割れ新たな対策が求められる。また、古城山にロープウェイを使い、観光客の方々に山頂から松木内川堤の桜の絶景を観ていただき、新たな観光スポットにすべきではないか。

答弁 名勝松木内川堤ソメイヨシノは八十二年目を迎え、落合地区ソメイヨシノも仙北地域振興局と協議し、次世代の桜植栽も含め



■古城山頂から松木内川桜堤絶景

桜の適正管理に努めたい。角館まちづくり運営体から古城山再生の提案があり、山頂までのスロープ化等ハード事業を検討したい。

2月4日には、臨時全体会議で安全対策に対する提案をしてご承認いただいた。二度と同じ過ちを繰り返さないため、関係団体と更に協議を続けたい。

質問 角館町内小勝田、表町方面で、悪臭の苦情があり、その対策についての考えは。

立町ポケットパークの活用は
質問 出店希望者の要望に応え、空き家、空き店舗の活用を図るべきではないか。
答弁 ポケットパーク出店希望者は、立町市有地利協議会に相談を掛けていただきたい。

角館のお祭りの今後のあり方を問う

質問 角館のお祭りで、昭和五十年にも死亡事故があったと記憶しているが、今回の事故を受け、伝統行事の祭りを、実行委員会のあり方も含め、再検討する時期に来ているのではないか。

司食品の誘致は
質問 司食品の誘致が失敗する前に、途中で引き返せなかったのか。
答弁 司食品の企業誘致は、昨年8月4日、滝本社長が県庁を訪れ、話し合いを行った。一日も早く諸問題の解決を図りたい。

角館のお祭りの本質に関わる部分での意識が欠落し、今回の人身事故が起きたのではと、私個人では思っている。お祭り実行委員会会長として、安全対策委員会を立ち上げ、答申をいただいた。2月11日には、研究者による祭りの安全と事故の研修会も開かれた。

病院経営と患者サービスについて

質問 病院の医師と議会との意見を交換する場が必要ではないのか。

答弁 病院の現状を知っていたため、議会と病院スタッフとの意見交換会を今後も開催したい。

(高久昭二記)

はなさき仙北と教育・保育施設の運営にどう取り組むか。



共産党 平岡 裕子 議員

市長 民間からの協力も頂き、日本一子育てに優しいまちづくりを進めていく。

社会福祉法人はなさき仙北と教育・保育施設の運営は

質問 ①平成28年度の園児の全施設の入園状況②受け入れと全施設の状況③はなさき仙北の概要（事務局体制・認定子ども園の運営・予算・職員体制）について伺う。

答弁 ①4月1日時点の入園決定人数は、角館213人、白岩小百合44人、角館西44人、中川21人、にこにこ88人、松木内47人、だしのこ園131人、神代子ども園136人で、全市で724人の状況である。

②昨年度と比較すると1歳・4歳児が増加、2歳・3歳・5歳児が減少、市全体で27人減少している。ゼロ歳児は角館保育園で5人が入所待機となっている。

③事務局は5人体制（2人は市の派遣職員）、だしのこ園は園長以下39人、神代子ども園は37人体制となっている。市の臨時職員から法人の正職員になった方は、2園あわせて10人である。予算は、市からの委託事業収入・補助金・施設費を合わせて1,375万6千円となる。施設の移譲は、土地は

無償貸付け、建物及び備品は無償譲渡とし、4月1日が移譲日となる。

質問 市の職員の保育園の異動等も考えているのか。

答弁（副市長） 平成28年度は2つの認定子ども園に14人の市の保育士を派遣するという事で協議している。これは当面、保育の質を低下させない事と保育のスキルを維持していく事で、2・3年のスパンで両園に派遣する事としている。その後は、全て法人の保育士で運営していく体制を整備していきたいと考えている。今回派遣を予定しているのは、現在、神代子ども園・だしのこ園の保育士からということである。

保育料の助成は検討されたか

質問 市では、一定の所得に応じた、第2子から保育料を無料化する

としたが、第1子の子育て支援が充実して、第2子の誕生につながると思うが検討されたのか。

答弁 本市の保育料は、他自治体や国の基準と比較して約半額であり、この差額分は市が負担してい

る。十分検討し、第2子を生み育てやすいように、既に出生している第2子からの無料化に踏み切ったということである。

ロタウイルスの予防接種化を

質問 インフルエンザの予防接種助成を高校生まで広げる考えはあるか。乳児期にかかりやすいロタウイルスの予防接種化の検討をされているか。

答弁 インフルエンザの予防接種の一部助成は6歳児の就学前としている。流行や症状、年齢等も考慮し、更に検討事案とする。国では、ロタ定期予防接種化については有効性・安全性の評価の検討が必要との見解である。今後の導入については、国の指針等を注視して検討を進めて行きたい。

補正具補助等の検討は

質問 2人に1人は、がんにかかるといわれている。抗がん剤や放射線治療を受ける女性の立場に立つて、ウィッグや補正具の補助等、女性の生活応援・支援をするべきではないか。

答弁 これまで市の検討にはなかった提案である。県内では能代市が既に実施している。医師の証明書と補正具の請求書を添付して、乳房は上限額2万円、ウィッグは3万円としている。山形県では既に実施している。大変ありがたい提案だと受け止め、実施に向けた検討をさせていただきたい。

（熊谷一夫記）



■社会福祉法人「はなさき仙北」が運営する神代こども園



民政会議 伊藤 邦彦 議員

クリオンプールの新築を。

市長 既存のプールを改修した方が維持費が安い。

クリオンプールの新築を

質問 クリオンのプールは合併協議会で、旧西木村が準備した敷地に建設することになっていたのではないかと。

答弁 現在、プールの新築には約5億円、維持管理には年間4,500万円の経費が必要と試算されている、改修した場合の維持管理費には1,500万円程度と推計している。プールは改修後約20年間は大丈夫だと想定されるので、この間に財政事情等も考慮して、新プールの議論がされるものと考える。

質問 プールの改修方法・改修箇所及び予算について伺う。

答弁 予算は現プールの改修と設計料を含め5,800万円程、ボイラーの設置に3,900万円合わせて9,700万円程である。

質問 クリオン本体そのものが建築後30年近く経過している。耐力、耐震調査等を実施したのか。

答弁 耐力等の調査は平成27年度に実施したが、調査結果報告書が、まだ提出されていない。

質問 改修後の用途が子供達の水泳だけでなく、高齢者の方々の膝痛、腰痛等の予防や緩和のためにも活用されると思われるが、3階への階段の昇降は厳しいので、エレベーター等は設置するのか。

答弁 高齢者の方々の活用も考慮された改修であるが、平成28年度の改修予算には含まれていない。

耐力等の調査結果に基づきクリオンの改修計画が予定されている。その際に議論することを考えている。

質問 プールサイド等の冬期間の暖房は大丈夫なのか。

答弁 ボイラーの改修費が高額なのは、冬期間を含めて通年使用できるように暖房等にも配慮された改修となるためである。

市内公共遊休施設の活用は

質問 介護施設、老健施設等の各施設には、入所希望待機者が100人以上いると聞いている。市内には学校を含め公共の遊休施設が多くある。これを老人介護施設等に活用することにより、働く職員の雇用も生まれるのではないかと。

答弁 旧学校を介護施設にと企業や県関係者が視察したことがある。建物の構造上福祉施設として活用することが、基準になじまないとして活用出来なかつた経緯がある。しかし、法律を満たしている部分とそうでない部分があり、地域の方々が使い勝手のよい小規模多機能な地域拠点として、学校施設だけでなく市内遊休施設について考えていく。

熱源を供給するバイオマス施設の事業化はできないか

質問 仙北市の面積の約80%が森林である。間伐、除伐した木が山に放置されているので、これを集めバイオマス発電施設の燃料として活用することにより、隣接する施設に電気と熱源が送られるとした事業は、火災により中止となったが、それまで習得した知識や人脈を活用してチップを熱源とする施設として再度事業化できないか。

答弁 熱源を供給する温水ボイラーの燃料としてチップを活用するバイオマス施設は全国各地で稼働しているが、チップの原料である間伐、除伐された木材を集めることができないかを鍵を握っている。木材を集め搬出する作業道や林道が整備されている状況があれば、コスト面において有利であると思慮されるが、仙北市の状況においては厳しい。また、自治体がその事業に取り組むには、原材料の調達の仕事が重要であることを、バイオマス発電施設の体験から得られた知見である。

市民歌の普及を図れ

質問 仙北市民歌は歌詞、メロディともすばらしく、これを各会合

等で歌うことにより市民に一体感が醸成されるのではないかと。また、県庁を始め県内各市町村も電話待ちの間に県民歌や市町村歌が流れる所もあり、PRにも貢献している。市の防災無線での時報、あるいは電話の待ち受け等の際流れるメロディを市民歌に変える等して市民歌の普及を図るべきでないかと。

答弁 各学校にパネルの展示やCDの配布はしているが、人には音楽の好き嫌いがあるので強制はできないとの思いである。ただ、知ってもらって歌ってもらえる機会をたくさん作りたいと思っている。

(佐藤大成記)



■改修されるクリオンプール

公共施設等総合管理計画の策定にあたっては明確なビジョンが必要ではないのか。



議員 小林幸悦 翠鸞会

市長

地域の声を反映させて、それぞれの公共施設の方向性を定めていきたい。

公共施設について

質問 平成28年度において公共施設等総合管理計画を策定するとしているが、現在の公共施設をどうするのかという明確なビジョンが必要である。維持管理コストや安全性、類似施設や使用頻度等を考慮しての統廃合など、今後の方針について問う。特に老朽化の著しい「市営住宅」「角館東公民館」「角館総合技能センター」をどうするのか。

答弁 計画策定にあたっては、施設の利用者や地域の声を計画に反映させたいと考えている。現在、固定資産台帳整備の作業を進めているが、維持管理、修繕、更新等にかかる中長期的な経費の見込みを算出することや、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針等を、充実、精緻化することに活用したいと考えている。重要度や緊急度等を考慮の上、公共施設の統廃合、除却等を計画的に進めると同時に、遊休財産の売却の推進、有効な活用方法等検討したいと考えている。

市営住宅は、現在268戸で、このうち玉川住宅、田中住宅、武蔵野団地の木造平屋建て、岩瀬住宅は耐用年限が経過したものや老朽化が顕著な住宅が目立っている現状の中、入居者が退去した住宅は次の募集は行わず、順次解体を

行っている。入居中の住宅については、随時補修等を行っている状況である。角館東公民館は、代替施設がない現状では今後も維持したいと考えている。技能センターは、早期に解体したいと考えている。

クニマス未来館について

質問 将来のクニマス孵化、養殖に向けた具体的な計画は。

答弁 基本的な調査、検討、課題の抽出から施設整備の具体的な構想策定、建設着手まで、市としての方針を明確に掲げ、国・県・研究機関等の指導協力を仰ぎながらインターバルをおくことなく、進めたいと考えている。

質問 田沢湖再生への具体的な取り組みは。

答弁 湖底調査を平成28年度も行う予定である。基本調査は、平成28年度より順次実施の予定である。環境の修復や再生に向けて何が必要なのかを議論し、人的体制、組織体制の強化で国・県・研究機関等と連携をした基礎調査や研究活動をパワーアップしたいと考えている。

耕作放棄地について

質問 耕作放棄状態の農用地の現状は。

答弁 耕作放棄地は32・11haで、市全体の農地面積に対して約0・55%である。再生可能な農地面積

は31・42ha、耕作放棄地の97・9%を占めている状況である。農業委員会での農地パトロールの結果をもとに、所有者等の意向の確認を行っている。確認した意向を踏まえ、再生可能な農地については、農地法による賃貸契約や所有者移転による売買などの斡旋を行い、農地の利用調整と有効利用を進めている。

質問 耕作放棄地解消のための農地中間管理機構の活用は。

答弁 農用地の有効活用を図るために創設された農地中間管理機構ではあるが、耕作放棄地については借り受けは行わない状況にあることについては問題があるという思いである。国等の制度を活用して農地としての再生をした上で機構に貸し付け登録することが農地の高度利用促進につながるものと考えている。

地方創生総合戦略と地域運営体のかかりについて

質問 総合戦略の実践にあたり、民間や地域運営体はどのように位置付けられるのか。

答弁 実践にあたっては、さまざまな機会を捉え市民の皆様を理解していただくことが重要と考えている。新たな地域社会の形成という観点からは、重要な主体となるのが市民であり地域運営体である

と考えている。市が抱えている課題解決のため、協働して汗を流していただきたいと考えている。

今後の財政計画と事業選択について

質問 職員減少に反比例する事務事業量の増加の対応は。

答弁 アウトソーシング、事務事業の移転でスリム化をしなければならぬというのと同時に、いかに人材を確保するかということ課題に悩んでいる現状ではあるが、それぞれのスキルアップを図りながらチームとしての機能向上、醸成を進めていきたいと考えている。

(真崎寿浩記)



■老朽化が著しい技能センター

市職員の社会人採用枠を設けよ。

仁政クラブ 稲田 修 議員



市長 即戦力としての採用を検討したい。

少子化、高齢化対策について

質問 人口減少が著しい中、生産

人口の確保が最重要課題である。本市を離れ仕事をしている若者達に、1人でも多く帰ってきてもら

い、これまで培ってきた経験や知識を活かして活躍してもらいたい。

そのためには、市は、職員採用に社会人枠を設けて、本市出身のこ

うした若い方々を対象とし、採用して行くという考え方はないのか。

答弁 社会人採用枠も以前はあった。市では外国人誘客に力を入

れていることから語学が堪能な人などや、測量図面を書ける技術を持つ人を想定した上で、経験や知識

のある人を即戦力として市民の方々に提供できると言う事で来年

の採用には是非検討をしたい。

また、移住や定住の観点からも市外在住者や子育てをしている世

帯の人などや、インバウンド対策として職員の採用も話は、頂いて

おり実は総務人事担当部の方では色々検討している。

質問 高齢化対策は第6期福祉計画どおりなのか。

答弁 笑顔、安心、支え合いという計画が6期計画である。その優先度、優先順位をどこにもつか、

の考え方によって優劣、順位が変

わると思う。モデル的な取り組みを、することが重要だと思う。

それを全市に広げて、成功事例に取りかかる事になれば、良いと思う。是非28年度で検討したい。

質問 職員の再任。過去3年間の再任用の数は。

答弁 基本的に再任用は民間は既に退職年数を延ばしている。

国の方針では、公務員の退職年限を、平成37年までに民間と同レベルにするとしている。全国18

14の自治体がまだ退職年齢が60歳になっている。年金を満額受給

できる65歳まで、民間と同じく肩を並べるための再任用制度である。

再任用人数は平成25年は1人、26年は8人、27年は8人、28年は12人である。

質問 再任用のメリット、デメリットはどうか。

答弁 メリットとしては、専門的な知識の継続性が図られる事があり、知識や経験を後輩にきちんと

伝えていって、組織の活力を維持することが出来る。

デメリットでは、心配している部分は幾つかある。その再任用し

た職員が、今まで以上に職場に愛着をもって市民の方々に接して頂くというモチベーションを維持することが出来るかどうか、という

心配はある。また、組織図の中には市職員の再任用の名前も入っており、部長級で退職された方は主

査クラスでの再任用という状況である。

(黒沢龍己記)



■笑顔、安心、支え合いの社会を